

研究発表会若手優秀発表賞の受賞について

(公社)日本地すべり学会

第58回研究発表会及び現地見学会実行委員会

事業計画部

若手研究者の研究奨励の一環として、研究発表会において若手研究者が行った優れた発表に対して「若手優秀発表賞」を授与しています。今回、第58回研究発表会熊本大会において若手研究者の発表から選考を行った結果、以下の方々に若手優秀発表賞を授与することに決定しました。受賞者には、実行委員会から表彰状と副賞が授与されるほか、学会誌への投稿時の優遇措置*が授与されます。

【口頭発表部門】

渡邊暁乃(群馬大学)

演題：自然斜面内の地下水位上昇量の簡易予測モデル

連名者：尾崎昂嗣、若井明彦、蔡飛、佐藤剛、村田健史、木村跨、林一成、山崎孝成

大鶴泰史(株式会社アイエステー)

演題：日連続安定計算に基づく集水井対策の効果評価 その1 -三次元安定解析と実効雨量法を使って-

連名者：上妻良昌、江藤大、石川晴和

【ポスター発表部門】

田口翔也(群馬大学)

演題：直立岩盤表面の変位量の測定値から開口亀裂を推定するための解析的試み

連名者：若井明彦、山本優介、古島広明、廣嶼孝也

小谷健太(群馬大学)

演題：弾粘塑性有限要素法による地下水位と連動した地すべり運動のパラメトリックスタディ

連名者：大澤宗一郎、若井明彦

講評

口頭発表部門では、15名の対象者の中から、学生1名、社会人1名の受賞が決まりました。両氏とも講演要旨による事前審査、当日の発表状況において3名の審査員全員から高い評価を得て選出されました。渡邊暁乃氏は、着眼点の良さや研究が実務への活用につながる事が明確であったことなどが評価されました。更に解析の検証の積み重ねが待たれるところです。大鶴泰史氏は、地すべり対策としての集水井工の評価という重要なテーマに取り組んでおり発表

も分かり易かったことが評価されました。まだ「その1」とあるように研究途上であり今後の進展を期待したいところです。

ポスター部門では、10名の候補者に対して審査が行われ、学生2名の受賞となりました。両氏とも事前審査、発表状況とも高い評価を得て選出されました。田口翔也氏は、事前審査・当日審査とも高い評価を得ています。着眼点や現場に役立つ点の評価とともに、発表要旨の中で論旨が明確に記述された点や、当日の説明も分かり易く伝えようとしていた点が、高く評価されました。小谷健太氏は、事前審査・当日審査とも高い評価を得ています。解析条件の設定根拠や実現象との関係などについての説明などがあるとより高いレベルの研究発表になると期待されます。

選考方法

対象となるのは、申込時に35歳以下の正会員で選考を希望する者の中から、実際に本人が規定時間に発表し、前年までに同賞を受賞していない者である。なおポスターと口頭は別の賞として扱う。対象となる候補者の発表について、実行委員会と事業計画部が選任した審査員により、講演要旨に基づく事前審査と当日の発表を対象とする当日審査の2段階に分けて審査を行った。審査員の採点結果に基づいて事業計画部長・大会実行委員長からなる選考委員会で審議を行い、最終的に学会長の承認を得て受賞者を決定した。事前審査と当日審査の審査方法は次の通りである。

(口頭部門)

各セッションの座長と10名の審査員により審査を行った。事前審査は、「研究内容」「研究レベル」「原稿の完成度」、当日審査は、「発表状況」(研究内容への理解度(貢献度)の高さや、発表のわかりやすさ、質疑応答がきちんとできることなど)について5段階で採点した。また総合的な評価として、表彰に値する発表、表彰に値しないと評価される発表がある場合は、記入できるようにした。候補者1名あたり3名の審査員により審査し、その合計点で評価した。審査対象の発表の関係者が審査員とならないように配慮した。

(ポスター部門)

審査は、4名の審査員により行った。事前審査は、「研究内容」「研究レベル」「原稿の完成度」、当日審査は、ポスター発表コアタイムにおける「研究の内容」「ポスターの出来栄」「発表状況」について5段階で採点した。表彰に値する発表、表彰に値しないと評価される発表がある場合は、記入できるようにした。1候補者4名の審査員で審査し、その合計点で評価した。また、関係者が審査員とならないように配慮した。

審査員(敬称略、50音順)

(口頭部門)

各発表セッション座長、井上宏、岩佐卓実、大村泰、加来哲也、香月裕宣、加藤大祐、肥山

浩樹、小林豊、土志田正二、沼宮内信
(ポスター部門)

井上宏、楠本岳志、相楽渉、東孝寛

* 学会誌投稿優遇措置

受賞者が筆頭著者として、受賞した発表に関連する内容の論文を地すべり学会誌に投稿・掲載をする場合の投稿料について、受賞から3年間は免除するものとする(期間は、受賞者発表日および編集委員会での原稿受付日を対象とする。発表様式は問わない。ただし、カラ印刷料、超過頁料金は免除対象に含まない)。これを機にぜひ成果の論文投稿をお願いいたします。

以上